

出山横穴墓群第八号横穴墓(三鷹市)

でやまおうけつぼぐん

ここは野川沿いの崖(国分寺崖線)で、ホタルの里～天文台を通過して神代植物園の南の崖まで横穴墓が点々と作られているエリア



まっすぐ崖が下っている



右手を見たところ/自然環境保存地区となっている



自然環境保全地区

指定番号 第1号
指定年月日 昭和60年10月1日

所在地 三鷹市大沢二丁目1115番地の1
他7筆 面積 2,842m²

この地域は、市内の良好な自然環境を保護育成するため、三鷹市が自然環境保全地区として指定したものです。
関係者以外の無断立入を禁止します。

三鷹市長



竹林のもたらす恵み

この竹林は、約260年前に中国から渡来した“モウソウチク”という竹の林で、現在では全国的に見られます。



モウソウチク (イネ科)
Phyllostachys heterocycla

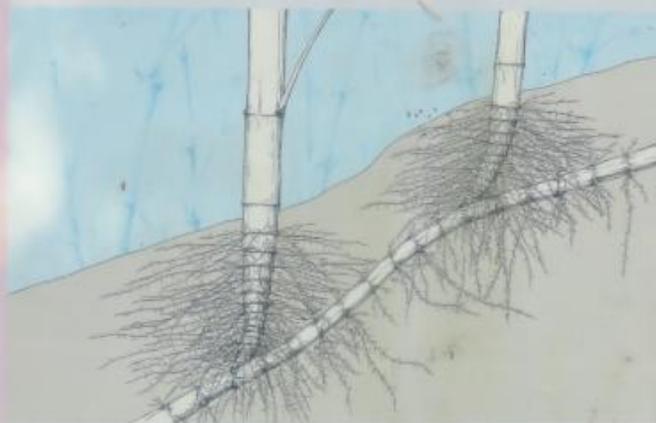
竹は春にたけのこが取れ、物干し竿や竹細工、枝を竹ぼうき、皮を包み紙にするなど、余すところなく使われます。また竹林は根（地下茎）を縦横にのばし、崖崩れを防ぐ働きもあります。

竹林

たけ
ばやし

モウソウチクの名の由来

昔、中国に住んでいた孟宗という名前の子供が病気の親のため、冬にたけのこを取ってきたというお話に因んで、孟宗竹とつきました。



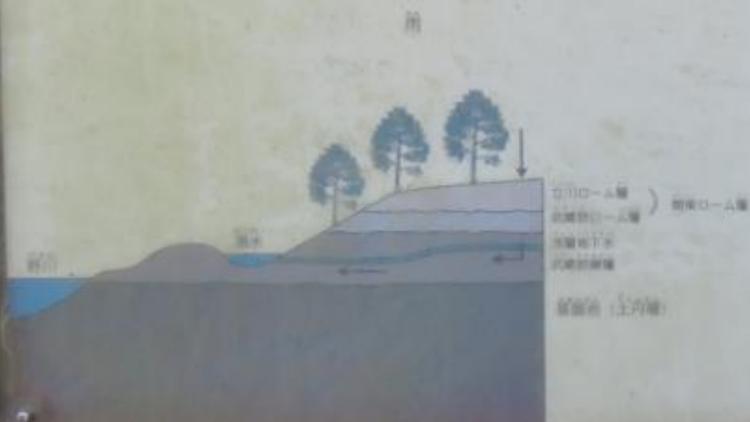
竹林ができるまで

モウソウチクは移植されると、四方へ地下茎を伸ばし、たけのこを出して少しずつ数を増やします。竹より高い樹木が覆う林には進出できませんが、開けた所では数年で竹林になります。花が咲くのはとても珍しく、咲くと、コメのような実がなったあと枯れてしまいま

崖線と湧き水

国分寺崖線は古多摩川が削り取った河床段で、国分寺から二子多摩川まで続いています。その地層は、富士山や箱根山の火山灰である関東ローム層で透水性がよく、地表にしみこんだ雨水は地下数メートルの砂礫層に溜り、地下水になります。この地下水が地表にあらわれ湧き水になります。

国分寺崖線の断面図



見られる植物たち



紅葉林に多く、村からは奥の木立が青々です。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。



クワローム層の隙間に生える。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。



クワローム層の隙間に生える。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。



関東では代表的なカンで、紅葉林に生えています。花が白く、葉が緑で、葉の裏側で刺し立てています。



紅葉林と紅葉林の間に生える。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。



早春、ソメイヨシノより早く咲く。花は白く、葉は緑で、葉の裏側で刺し立てています。



五月ごろ白の山に変わる。花は白く、葉は緑で、葉の裏側で刺し立てています。



紅葉林の隙間に生える。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。



林の隙間に生える。葉はシラカシと似ていますが、葉の裏側で刺し立てています。

さて、左手には門があり、出山横穴墓群第八号横穴墓へはここから入って行く



崖線に沿って進んで行く



少し進むと、左上に祠があった



更に少し進んだ左手に説明坂が見える



正面のマウンドの辺りが「出山遺跡第1号住居跡」のようだ



三鷹市・^{てやま}出山遺跡 第1号住居跡(縄文時代後期)

昭和53(1978)年に発掘調査された三鷹市域では珍しい縄文時代後期(今から約3,500年前)の竪穴住居跡。斜面地に造られていたことから、約半分は後世に土が流失し、全体の形は不明。おそらく直径4~5mほどの円形と思われる。

出土品には、下の注口土器をはじめとする縄文土器、中央部には火熱の跡を残す河原石や石棒、磨石などの石器類のほかスギの炭化材がある。

住居跡は、この標識の後方の土中に保存されている。

^ど ^{びん}土瓶形 ^{ちゆう} ^{こう}の注口土器 (東京都指定有形文化財・考古資料)

全体のかたちは、胴張りをもった^{そろ} ^{ばん} ^{だま}算盤玉状の土瓶形で、2個一対の^{れん} ^{かん} ^{じゆう} ^{とつ}連環状の把手が付き、一方にやや上向きの注口部が付いている。

高さ33.8cm、胴部直径34.0cm。注ぎ口までの容量は約13ℓ(一升瓶7本分)で、土瓶形では日本でも最大級の大形品である。

文様は、主に二重円と長楕円の^{すり} ^{けし}磨消縄文で構成されている。学術的評価の高い優品である。



縄文後期堀之内2式土器

◆ 平成 10(1998)年 3月指定 ◆ 実物の見学は
☎0422-48-9454 三鷹市生涯学習課分室まで

さて、更に進むと斜面の中腹にコンクリート造の施設がある



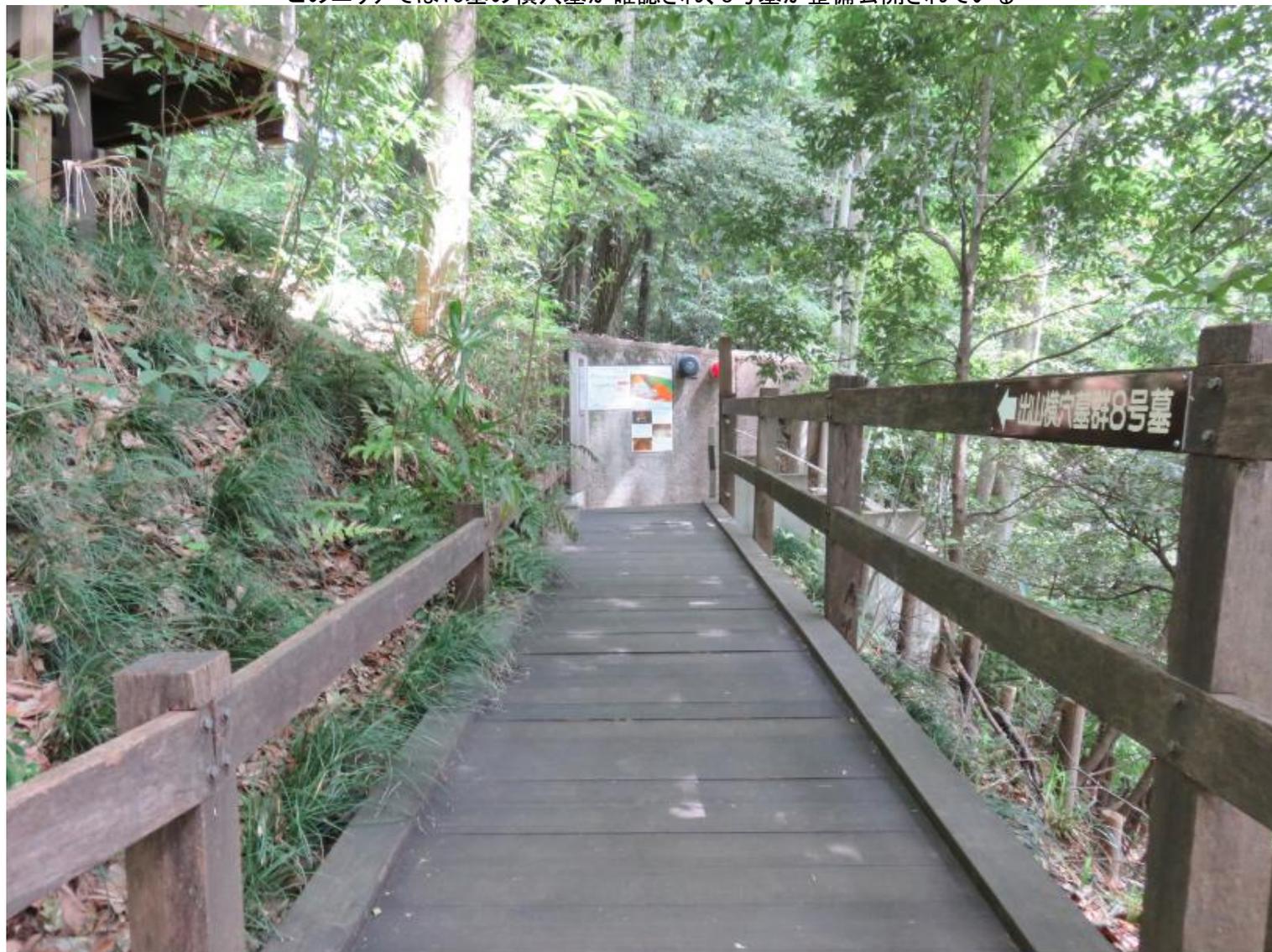
こんな塩梅



そこで右手を見たところ/斜面となって下っている



このエリアでは10基の横穴墓が確認され、8号墓が整備公開されている



ここからその施設に入って行く



10基の横穴墓と2基の縄文時代の住居跡が所在する

東京都指定史跡

で やま おう けつ ぼ ぐん ごう ぼ
出山横穴墓群 8号墓

三鷹市大沢二丁目1097番1

横穴墓とは何か

古墳時代の後半（5世紀終わりごろ）から、奈良・平安時代までにつくられた墓で、南九州から東北南部に分布します。丘陵の斜面や崖を横に掘って、その中に遺体を埋葬するもので、ふつう数多くの墓がまとまり、横穴墓群とよばれています。



このあたりに横穴墓があることは、古くから知られていました。現在では発掘調査や地下レーダーによって10基が発見され、一帯が出山横穴墓群とよばれています。特に8号墓は特徴のある形から、平成6年3月に東京都史跡に指定されました。

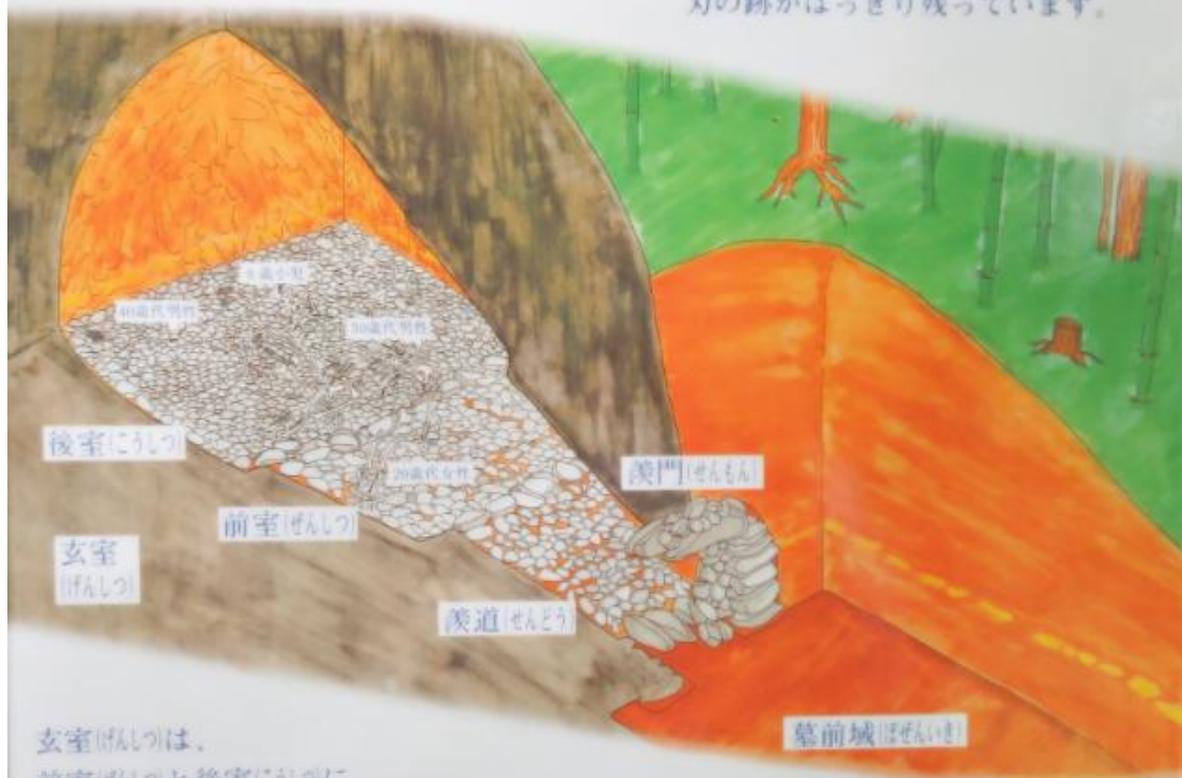
出山横穴墓群第八号横穴墓/7世紀の築造

8号墓の特徴

墓の入口である羨門(せんもん)はアーチ形の石組みで丈夫につくられています。

内部は細い羨道(せんどう)と遺体が置かれた玄室(げんしつ)とに分かれ、

石が敷かれています。天井もアーチ形で、掘り道具の刃の跡がはっきり残っています。



玄室(げんしつ)は、

前室(ぜんしつ)と後室(こうしつ)に

区切られています。4体の人骨が埋葬されていて、

40代と30代の男性、20代の女性、8歳の小児だとわかりました。

墓前城(ぼぜんじょう)では平瓶(ひらびん)という形の須恵器(すゑき)が発見されました。

この器は7世紀に焼かれたもので、墓がつけられたのも同じころと考えられます。



せんもん
◀ 羨門を開いた時のようすです。
入口は126個もの石をつめ込んで
閉じられていました。

げんしつ
▶ 玄室内の4体の埋葬人骨です。
一度ではなく、次々に埋葬されたと
考えられます。
これを追葬ついざうといいます。



げんしつ
◀ 玄室のアーチ形天井です。
掘り道具の刃の跡がすじ状に残って
います。鉄製の刃を備えた切れ味の
良い道具で掘ったと考えられます。

平成8年3月
三鷹市教育委員会

このコンクリー造の施設に入ると、ガラス越しに横穴墓の内部が見学できるようになっている



羨門から玄室を覗いたところ



アーチ形の石積みで造られた羨門と玄室への羨道を見たところ

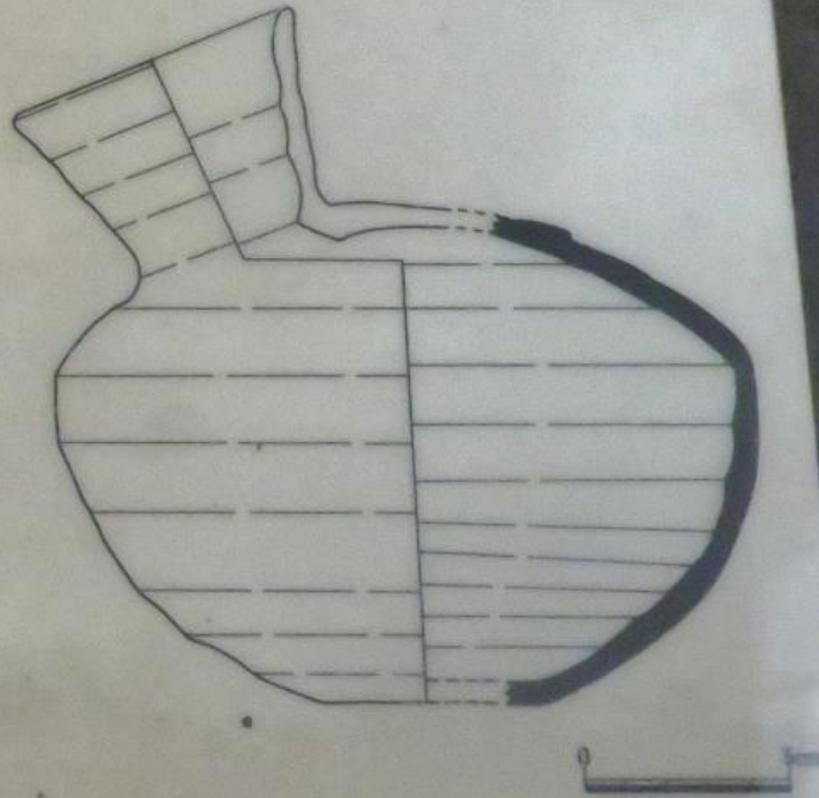


須恵器(すゑき)

現在、見学室のある墓前域(ぼぜんいき)は土が厚く堆積していました。土の中から須恵器と呼ばれる焼き物の破片が6点発見され、復元すると平瓶(へいびい)という形の器(7世紀)になりました。

平瓶は日常生活用ではなく、埋葬や供養の儀式に用いられる器と考えられています。横穴墓では儀式用の器が、一部を壊された状態で発見されることが多くあり、この平瓶も首の部分は発見されていません。

須恵器の発見によって、8号墓がつけられたのも7世紀頃と考えられます。なお、展示品は復元模型です。



玄室には人骨のレプリカが置かれている



ここは近くにある大沢ふるさとセンター/出山横穴墓群第八号横穴墓に関する資料が置いてあった



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/t_tamak_deyama8/

<https://blog.goo.ne.jp/kurihira201/e/0bdb63607c27086db7d493ca694a2707>

<https://kofunmeguri.hatenablog.com/entry/2018/01/30/173450>

http://www.geocities.jp/nepenthes3_walker/ideyama.html

<http://www.mitaka-iseki.jp/tokubetsu3/8goubo.htm>

